

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ひかり砂川2		公表日		2026年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・活動によって、テーブル等を移動したり、一度に行わず順番に行う等工夫しながら活動している。	・限られたスペースのため、利用児が多いと狭いと思われる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		・職員が少ないときは、ひかり砂川1からヘルプに来てもらっている。	・新規児が入った時には、個別の対応となるため、特に職員が必要になる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		・自分の靴やかばんなどを置く場所に、絵や個人のマークを付け、分かりやすくしている。	・外が見えやすい窓がなく、閉塞感がある。 ・個室が無いので個別の活動や落ち着く場がない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1	・事業所内の清潔を保つため、毎日掃除や玩具等の消毒をしている。 ・活動に合わせた環境を整え、換気や加湿も行っている	・結露しやすい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	1	・個室はないため、必要に応じて事務室などで話をしたりクールダウンするようにしている。	・ワンフロアの施設のため、個室が無い	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		・日々、職員間で振り返りを行っている。 ・日々の会話の中で気づいたことを伝えあうことが、業務の改善につながるきっかけになることもある。	・パートの職員もいるため、職員全員が揃って話をする時間が少ない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・職員全員に保護者向け評価表を確認してもらい、保護者の意向を知ってもらうようにする。	・保護者向け評価表がどこで公表されているのかわからない職員もいるため、周知する必要がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・毎月の事業所会議の中で、共有するようにしている ・管理者による職員面談も行い意見を出す場を設けている。	・意見が出されても、すぐに業務改善につながるわけではない。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	・現在、他機関による第三者評価は実施していない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・社内で開催する研修や外部で開催される様々な研修に参加している。 ・全職員が研修を受ける機会がある。	・職員が研修を受けることで専門的な知識を得て、技術向上につなげる必要がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		・ホームページで公表予定		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		・個別支援計画を作成する際には、面談を行い、本人及び保護者様のニーズをお聞きしている。その後、職員間で課題を分析し計画を作成している。	・最低でも6か月毎に見直しをする。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		・計画作成時には、職員全体で話し合い課題の分析をしている。 ・話をすることで、共通理解が深まる。	・個々で話し合いをする場面はあるが、全体で共有できているかはわからない。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		・計画はHUGにより、職員がいつでも見られ確認できる。 ・活動の記録を入力する際、その都度計画を確認しながら行っている	・しっかり共有できる時間が持てない。 ・都度、言葉で伝えあっているものの、日々関わる職員の構成が変わるため、難しい面もある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		・定期的にあセスメントを行い、計画に反映できるようにしている。 ・統一されたアセスメントを活用	・全事業所共通のアセスメントの必要性	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		・児童発達支援のガイドラインに基づき、具体的な支援内容を設定している。 ・各項目を計画に入れ、具体的にどんな支援が必要なのかを検討し、内容を設定している。	・ガイドラインに基づいて個別支援計画を作成していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・立案は会議の場で職員で話し合い決めている。	・パートの職員にも会議に出席してもらう。	

適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		・新しい職員が入ることで、新しい活動が増えていく。 ・利用児にとってどんな活動が良いのか、話し合っていて決めている。	・2歳から6歳までのいろいろな苦手さを持った利用児に対し、個々に合った活動を提供するのは難しい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		・同じ活動でも、個々に必要な支援を行うようにしている。	・利用者数の増加と職員の都合で、個別活動の時間をとることが難しくなっている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	3	・その日のレク計画を掲示し、口頭での説明を行っている。	・送迎等もあるため、全員で打ち合わせを行う時間を取るのが難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		・いる職員で振り返りはしている。 ・気づいた点は報告し合うようにしている。	・全員での打ち合わせをするのは難しい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・支援記録は詳しく記録出来ていると思う	・記録の必要性は理解しているが、記録に時間がかかる
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		・半年に一度モニタリングを行い、計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・会議がある場合は、よく理解している者が参画するようにしている。	・職員が少ないため、同じ職員に負担がかかっている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		・必要に応じて資料を提出するなど、連携できる体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		・入園前に情報提供を行ったり、都度、情報交流を行っている。	・必要に応じて連携しているが十分ではない
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		・必要に応じて、資料の提出や教育相談に同行 ・会議への出席依頼があり、会議に出席し利用児の様子を伝える。	・必要に応じて連携しているが十分ではない
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4		・砂川市子ども通園センターの職員と連携を図っている。	・通園センターでの様子を見学したいが、なかなか時間を取ることが出来ない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	・公園や地域交流センター等で、地域のお子さんと遊ぶ機会はあった。	・事業所として保育園等との交流はできていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		・ひかりでの様子はHUGやLINEを活用し、日々の様子を共通理解するように努めている。	・保育園利用児などは直接保護者と会う機会がほとんどない。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	・親子レクや「なのはなきっず」など、保護者や兄弟児が参加できる場を設けている ・茶話会を開催し、保護者同士の交流の場も持てた。	・ペアレントトレーニングは行うことができていない。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		・契約時に丁寧に説明をしている。	・保護者には説明しているが、職員は把握出来ていない。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		・こどもにとってどのような支援をすると良いのか、面談を行い保護者の意向を確認している	・利用するお子様が小さい場合、保護者の意向が主となる。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		・計画説明時は、丁寧に説明して同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		・家族からの相談は随時対応し、アドバイスできるようにしている。	・定期的ではない。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	1	・親子レクの「さくらんぼ狩り」や「なのはなきっず」に、利用児だけではなく、保護者様と兄弟児にも参加していただき交流できる場も受けた	・父母の会や保護者会はない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		・支援計画にも記しているが、不安な事や心配なことがあった際には、いつでも相談にのれるようにする。 ・気軽に相談していただけるように信頼関係を築いていく。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		・HUGやSNSを通じ、行事予定や日々の活動を伝えている。 ・Instagramでもひかりの様子が発信している。	・通信は発行していない
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		・十分に留意している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		・配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		・地域住民を招待するような行事は行っていない
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		・防犯訓練では、滝川警察署の方に来ていただき、実際に不審者がいた場合にどうすると良いのか、寸劇を交えながら、お子様たちにわかりやすく説明していただいた。 ・年度末に職員で、感染症や自然災害時にどうすると良いのかの事業所内研修を行った。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		・避難訓練は毎月行っている。 ・事業所内でBCPの研修を行った	・時短勤務の職員が多いので、全員で訓練を行うことは難しい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	1	・契約時に確認している。 ・必要に応じて保護者がお薬手帳を提出してくれ、確認している。	・個別ファイルにそれぞれの情報は記されているが、職員全員が把握していない。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	・契約時に確認している。 ・事業所から出される食物は多くないが、その都度保護者に確認している。	・個別ファイルにそれぞれの情報は記されているが、職員全員が把握していない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		・こどもたちが安全に活動できるように留意している。	・具体的にどのような安全管理がされているが周知されていない
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	2	・緊急連絡簿は作成している。	・家族への周知はされていない。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		・ヒヤリハットが発生した場合には、事業所内で共有し、再発防止について話あっている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		・研修会に参加した職員から、会議の場で研修報告があった	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	1	・身体拘束を行ったことはないが、戸外活動での対応を明記し、説明をしている。	・身体拘束について、聞いたことが無い職員がいる	